

## ■「ICT地域活性化大賞2019」優秀賞 受賞事例

### オープンデータ化した地域資料の利活用を通じて大阪の魅力を発信 【大阪市立中央図書館】〈大阪府大阪市〉

#### 1. 目的と概略

大阪市立図書館は、2017年3月に大阪市立図書館デジタルアーカイブのコンテンツの中から著作権が消滅した地域資料の画像をオープンデータとして提供開始しました。2019年3月現在、コンテンツ数約7,200点、画像にして約130,000枚をオープンデータとして提供しています。

#### 2. 先進的な優良事例紹介

##### 2.1 事業概要

自治体最大規模の中央図書館と、蔵書が7～10万冊の23の地域図書館、自動車文庫からなっており、中央図書館を中枢とした情報・物流ネットワークを構築し、スケールメリットを活かして、市内全域に効率的な図書館サービスを提供しています。

劣化の激しい古文書資料の保存の観点から、1996年より、中央図書館で所蔵する近世の大阪に関する古文書、明治期から戦前にかけての絵はがきや写真等の画像を図書館内の利用者用端末やホームページ上で公開しています。館内公開限定資料を除き、図書館内はもちろん、自宅のパソコンからでも資料を閲覧し活用することができます。2014年1月にデジタルアーカイブシステムをリニューアルし、画像データの検索機能を豊富化したことに加えて、図書館の蔵書検索システムとデジタルアーカイブとの相互リンクが可能となり、操作性・検索性が向上しました。この頃から資料の二次利用申請が増加してきましたが、利用方法や利用範囲によっては許可できない場合もあり、申請と承諾の手続きには、利用者と職員双方にとって煩瑣で、時間もかかっていました。そこで、デジタルアーカイブのコンテンツの中から著作権が消滅した資料を加工も商用利用も許容するCC（クリエイティブ・コモンズ）ライセンスにおけるオープンデータとしてCC-BY4.0で提供することにしました。

オープンデータ化開始以降も、その利活用に向けて、関連の展示や画像の人気投票、活用講座などを継続して開催し、市民に周知を図っています。

##### 2.2 コラム

###### ① サービスイメージやシステム構成

大阪市立図書館デジタルアーカイブのコンテンツには、次のようなものがあります。（下線の資料は、オープンデータ対象コンテンツ）

- ・古文書

大阪関係などの古文書、引札、芝居番付、水帳、家分け文書、浄瑠璃本、百人一首文庫、間重富・間家関係文書

- ・写真・絵はがき

- ・地図

地形図・住宅地図、都市地図、その他地図等



オープンデータ化した画像は、大阪市立図書館デジタルアーカイブの資料の詳細画面の「注記/注釈」の項目に「CC-BY (クリエイティブ・コモンズ・ライセンス)」と記載しています。

## ② 事業展開による効果・成果

市職員による各部署に関連した画像を使った名刺の作成や、大阪市交通局（当時）・港湾局のイベント広報での活用、バスのラッピングデザインとしての使用、イベントの記念品（絵葉書・うちわ）、海外来賓用の錦絵額等の活用事例の報告を受けています。ほかにも、レトルト食品のパッケージやテレビ番組での利用、ハッカソンイベントへの画像提供、AR技術を使った子ども向けのイベント、イベント参加者へのお土産作成等、活用の実績が増えています。

2017年11月には、これらの取り組み等が評価され、大阪市立図書館がLibrary of the Year 2017 優秀賞を受賞しました。

ホームページ及びデジタルアーカイブへのアクセス増とともに、画像データ活用についての問い合わせも増加しています。

大阪市立図書館ホームページアクセス数：

約714万件（2015年度）→約778万件（2016年度）→約866万件（2017年度）

大阪市立図書館デジタルアーカイブアクセス数：

約2.8万件（2015年度）→約4.4万件（2016年度）→約7.8万件（2017年度）

一方で、二次利用申請件数は減少しており、大幅な行政事務の軽減に繋がっています。

二次利用申請件数：

129件（2015年度）→118件（2016年度）→49件（2017年度）



### ③ 事業展開のポイント

オープンデータ化については、「大阪市オープンデータの取り組みに関する指針」（2015年1月策定）並びに「大阪市ICT戦略」（2016年3月策定）に謳われている「積極的なデータ活用の推進（オープンデータ・ビッグデータ）」に則り、行政事務の効率化を目標に実施しました。同時に、総務省地域情報化アドバイザー派遣制度等を活用して外部の有識者の意見を取り入れながら、図書館の情報化施策の今後のあり方についての検討を進め、2017年6月『「大阪市ICT戦略」に沿った図書館の今後のあり方』を策定し、本市の施策として位置付けました。その後、「同アクションプラン」とともに図書館ホームページで公開しています。

オープンデータ化開始以降の取り組みについても、「同アクションプラン」に明記し、図書館で関連イベント・展示など継続的に実施しています。SNSで参加を呼び掛けるなど、図書館への来館者以外の方にもオープンデータを広報し、利用していただく機会となるよう企画しています。

・ツイッター「今日一枚」の投稿

2018年4月から、オープンデータ画像に「#大阪オープンデータ」とキーワードとなりそうな他のハッシュタグを付けて、ツイッターに投稿しています。それまで伸び悩んでいたツイッター

のフォロワーが、10か月で約15%も増加しました。

・ OML48チーム<sup>ひきふだ</sup>HIKIFUDA選抜総選挙

<sup>ひきふだ</sup>引札とは、明治時代の終わりから大正時代にかけて多く刷られた、現在のちらし広告にあたります。引札に描かれている人物などに、親しみやすいニックネームとキャッチフレーズを付けて、図書館内やインターネット上で投票していただきました。一位に選ばれた「ちゃりんこ兄弟」は図書館内ではすっかりおなじみのキャラクターとなりました。また、上位5位までに選ばれたキャラクターを使った画像加工コンテストも実施しました。



・ ウィキペディアタウンの開催

地域にある文化財や観光名所などの情報をインターネット上の百科事典「ウィキペディア」に掲載するイベントを開催しました。地域の名所やゆかりの人物について図書館所蔵資料で調査し、関連するオープンデータ画像も活用して、新しい「オープンな地域資料」としてウィキペディアの記事を参加者とともに作成しました。これらの活動は、デジタル資料以外の図書館所蔵資料の活用も促進し、市民のさらなる図書館の利活用に繋がると考えます。



また、オープンデータ画像のうち、色彩も鮮やかな『浪花百景』の画像102枚をウィキメディアコモンズにアップロードし、オンラインイベントとして関連するウィキペディアの記事への掲載を呼びかけました。記事への掲載はもちろんありましたが、ウィキデータに登録くださり、そこには、ポストン美術館のMuseum of Fine Artsとしてもインターネット上で見ることができると、情報が追加され、活用が広がっていることがわかります。ウィキペディアは、他の言語に翻訳されることもあるだけに、G20大阪サミット2019や2025年の大阪万博など、海外から来阪される多くの方にもご覧いただける機会が増え、ワールドワイドな利活用に繋がると考えます。

### 2. 3 サービス利用者の声

新聞五大紙や雑誌等で報道されたことを受け、画像データ活用についての問い合わせは増加しており、認知が進んでいます。図書館のウェブサイト「デジタルアーカイブオープンデータ利活用事例の紹介ページ」を設け、活用事例の紹介を行っています。同ページにある活用事例の投稿フォームから活用事例をお知らせいただくことも増えてきました。

### 2. 4 今後の課題と展開

市民へのより一層の周知のため、ちらしの配布や展示、人気投票、SNSでの情報発信を引き続き実施します。参加者が最近増加傾向にある図書館情報検索講座を、オープンデータ利活用の内容も盛り込んで企画するなど、継続した広報活動に取り組みます。オープンデータ画像の今後の活用の可能性を広げるべく、本市のマルチパートナーシップ制度を活用し、企業や研究者と連携して、活用のためのキーワードや地名・位置情報などのメタデータの豊富化や、マーケットでの活用など資金調達方法等も含めて現在検討を進めています。

また、図書館システムの機種更新に向けて、デジタルアーカイブシステムの国立国会図書館サーチとの連携、多言語対応、高精細画像の取り扱い等の検討も進めます。

児童生徒に対しては、学習指導要領や大阪市教育振興基本計画に地域学習の重要性が指摘されていることもあり、デジタルアーカイブ画像や図書館資料を使った、身近な地域の歴史や文化に興味を持てるような事業を企画していきます。

### 2. 5 導入費・維持経費

オープンデータ化については経常経費内で実施しています。

#### 〔問い合わせ先〕

- ・団体 大阪市立中央図書館  
〒550-0014  
大阪市西区北堀江4-3-2
- ・電話番号／06-6539-3300（インフォメーション）
- ・HP： <https://www.oml.city.osaka.lg.jp>